

- ・ 「障がい学生の大学進学に関する基本アンケート」
- ・ 「同志社大学における講義保障体験（授業体験）の申し出について（ご案内）」
- ・ 「DVD『Do! CARE』」（約15分）
- ・ 「障がい学生支援制度（案内パンフレット）」

障がい学生の大学進学に関する基本アンケート

回答締切り 12月10日(水)

学校名			国立・公立・私立
学校種別	高等学校・特別支援学校(聾学校を含む)・予備校		
主となる所在地	府・県		
回答者氏名			職位
連絡先	TEL	-	-
	FAX	-	-
	E-mail	@	

ご記入にあたってのお願い

- ・ Q3を除いて、貴校における障害のある生徒の受入れ経験の有無に関わらず(「無し」の場合、受け入れたことを想定して)お答えくだされば幸いです。

< 貴校に関するお尋ね >

Q1 過去に、聴覚・言語障害、視覚障害、肢体不自由、病弱・虚弱(内部障害)のある生徒が在籍したことはありますか?(該当する数字に をつけてください。以下同じ)

1. はい 2. いいえ

Q2 現在、聴覚・言語障害、視覚障害、肢体不自由、病弱・虚弱のある生徒が在籍していますか?

1. はい 2. いいえ

1. の場合、何名が在籍していますか。

聴覚・言語障害 ()名 重複 ()名

視覚障害 ()名 *左記障害の重複ケースで、種別は問いません

肢体不自由 ()名

病弱・虚弱 ()名

Q3 障害のある生徒に対する支援の現状は、どのようなものです(でした)か? 障害種別毎にご記入ください。(該当する数字すべてに をつけてください。以下同じ)

【聴覚・言語障害】

1. 授業ノートの提供 2. 教員が授業内容の資料を工夫

3. 要約筆記等補助者の配置 4. 手話通訳

5. ビデオは字幕付のものを使用

6. その他 ()

【視覚障害】

- 1. 移動介助
- 2. 拡大コピー
- 3. 授業ノートの提供
- 4. 代読
- 5. 紙媒体情報をデータにして音声化
- 6. 点訳
- 7. 施設の配慮(点字ブロックの敷設など)
- 8. その他()

【肢体不自由】

- 1. 車椅子介助
- 2. 授業ノートの提供
- 3. トイレ介助
- 4. 食事介助
- 5. 施設の配慮(身体障害者用トイレの設置など)
- 6. その他()

【病弱・虚弱】

- 1. 移動介助
- 2. 授業途中の退室の配慮
- 3. その他()

Q 4 近年、障害のある生徒の、大学への進学意欲の向上をお感じになりますか？

- 1. はい
- 2. いいえ
- 3. わからない

< 障害のある生徒の大学進学にあたってのお尋ね >

Q 5 生徒を大学に進学させるにあたっての不安はどのようなものですか？ 障害種別毎に不安の大きな順に最大3つまで、1, 2, 3とご記入ください。

	聴覚・言語障害	視覚障害	肢体不自由	病弱・虚弱
受験時の条件や配慮の内容				
入学後の支援体制の有無				
授業時の配慮				
施設のバリアフリー状況				
宿舍の確保				
就職支援				
その他()				

< 大学全般における障がい学生支援に関するお尋ね >

Q 6 進学を希望する大学の障がい学生支援に関する情報は、どのように入手していますか？

- 1. 大学発行の広報誌
- 2. 大学のホームページ
- 3. 『大学案内障害者版』
- 4. その他()

全国障害学生支援センターから発行されている書籍(ホームページもある)で、各大学の障がい学生受入れ状況が記載されている。

Q 7 大学によっては、障がい学生支援室を設けるなどして、そこに専任の障がい学生支援コーディネータを配置している場合がありますが、これまでご存知でしたか？

1 . はい 2 . いいえ

Q 8 大学によっては、障がい学生支援制度に関する案内パンフレットを作成している場合がありますが、これまでご存知でしたか？

1 . はい 2 . いいえ

<同志社大学における障がい学生支援に関するお尋ね>

Q 9 本学に進学を希望する障がい学生支援に関する情報は、どのように入手していますか？

1 . 大学発行の広報誌 2 . 本学ホームページ
3 . 『大学案内障害者版』(Q 6 参照) 4 . 本学障がい学生支援室発行の案内パンフレット 5 . その他 ()

Q 1 0 本学では、学生支援センター内に障がい学生支援室を設け、また専任の障がい学生支援コーディネータを配置していますが、これまでご存知でしたか？

1 . はい 2 . いいえ

Q 1 1 今回の調査に際し、本学の「障がい学生支援制度」に関するパンフレットを同封しましたが、それをご覧になった感想がありましたらご記入ください。

()

Q 1 2 今回の調査に際し、本学に在籍する障がい学生の学生生活と支援の概要を収めた DVD を同封しましたが、それをご覧になった感想がありましたらご記入ください。

()

Q 1 3 その他、本学の障がい学生支援に関するご要望があれば、ご記入ください。

()

Q 1 4 今回の取組みでは、同封別紙にご案内しましたように、聴覚に障害のある生徒、その父母、進路指導者等学校関係者を対象（重複参加可）に、実際に本学における基礎・教養科目の授業に陪席いただき、授業保障の実際を体験いただく機会を設けることにしましたが、ご関心がおありでしょうか？

1 . はい 2 . いいえ

<その他、関連するお尋ね>

Q 1 5 独立行政法人「日本学生支援機構」(JASSO) に特別支援課が設けられ、大学等における障がい学生修学支援に関する情報を提供されていますが、ご存知でしたか？

http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/index.html

1 . はい 2 . いいえ

Q 1 6 国立大学法人筑波技術大学が事務局となり、「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet - Japan) 」が立ち上げられ、大学等における聴覚障がい学生支援体制の確立や全国的な支援ネットワークの形成を目指していますが、ご存知でしたか？

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/xoops/>

1 . はい 2 . いいえ

<ご協力ありがとうございました>

2008年11月

同志社大学における講義保障体験（授業体験）の申し出について（ご案内）

今回の試みは、本学の調査研究のテーマである『障害のある生徒の大学での講義保障体験の有無による進学意欲の影響に関する比較調査』を行ううえでベースとなるものです。お申し出は、現在、聴覚障害のある生徒が在籍している場合を原則としますが、今後の貴校における受入れを想定されるケースも可とします。

本学（大学）における障がい学生支援の「講義保障」に関する取組みをじかに体験できる貴重な機会となることと確信いたしております。

つきましては、下記により実施いたしますので、積極的なお申し出をお願いする次第です。

記

実施対象日： 12月

月	火	水	木	金
		3	4	5
8	9	10	11	12
15	16	17	18	19
22		24		

実施講時： 1 講時（9:00～10:30） 2 講時（10:45～12:15）
3 講時（13:15～14:45） 4 講時（15:00～16:30）のいずれか

対象科目：

- ・原則として、通常、進学希望学部の1，2年次生が履修する基礎・教養科目とします。（但し、語学、実験・実習、体育実技科目は除きます）
- ・科目は、希望の来校日および講時をもとに、相談のうえ決定します。

実施校地：

京田辺校地（京都府京田辺市）を原則としますが、希望により今出川校地（京都市上京区）でも対応いたします。

講義保障手段： PC通訳、ノートテイク、手話通訳のいずれかとします。

（参考）PC通訳（パソコン通訳とも言い、障がい学生の両脇に学生サポートスタッフを配置し、講義内容を2台のパソコンで連携入力の上、パソコン画面に表示します。）

ノートテイク（障がい学生の両脇のサポートスタッフが、交互に講義内容を紙に書き取ります。）

参加対象者：

聴覚障害のある生徒（1～3年生のいずれでも可）その父母または進路指導教員とし、左記3者のいずれかまたはその重複を可とします。

<裏面へ>

当日の予定：

講義開始の30分前には来校いただき、簡単な打合せの後、授業に参加いただき、終了後、30分程度ご感想などをヒアリングいたします。また、お申し出により30分程度のキャンパスツアーを実施します。

実施予定数： **先着20名(組)**を予定しています。

申出方法：

進路指導教員または父母より、下記担当者に電話で直接お申し出くださるようお願いいたします。

< 本講義保障体験に関するお問合せ先 >

同志社大学 学生支援センター

京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室 担当：長澤または小林

TEL： 0774 - 65 - 7411

FAX： 0774 - 65 - 7024

E-mail： jt-care@mail.doshisha.ac.jp



Do! CARE

DOSHISHA UNIVERSITY

平成20年度文芸科学系
履修学生受入促進研究費助成事業

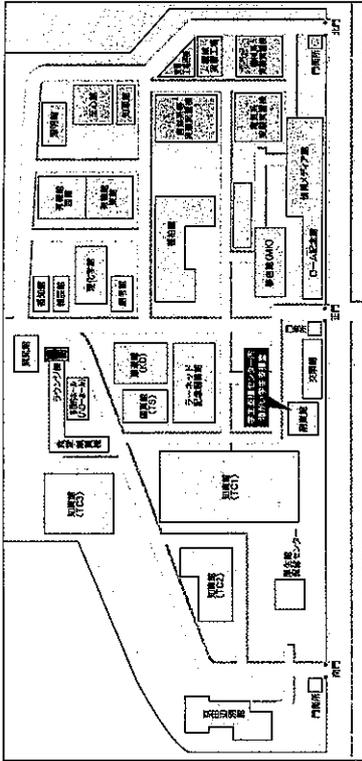
障がい学生支援制度 豊が 案内パンフレット



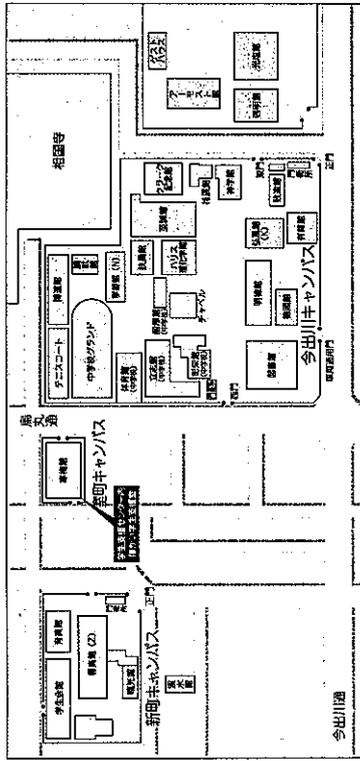
（講義の内容や状況をPC通訳（パソコン通訳）しているところです）

本学に在籍する障害のある学生 (challenged) が健常学生と等しい条件の下で教育を受けられるように、講義保障を中心とした学生生活における支援を行う制度です。本学ではchallengedとそれを支援するスタッフの自立的成長に着目し、その成果を再びコミュニティに還元させることを目指しています。

＜京田辺校地＞



＜今出川校地＞



～障がい学生支援制度に関する申込み・問い合わせ先～

＜学生支援センター 京田辺校地学生支援課＞

障がい学生支援室 (副業館)

Tel. 0774-65-7411 / Fax 0774-65-7409

E-mail : it-care@mail.doshisha.ac.jp

HP : <http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/shogai/>



書業の説明

challenged

アメリカでは、「障害のある人」のことを challenged (チャレンジド) と呼ぶことがあります。「神様からチャレンジという使命を与えられた人」「自分の課題に向き合う力が備わっている人」という意味合いで、障害をマイナスと捉えずポジティブな意味で、「障害のある人」のことを本学では「challenged」と呼ぶことにしています。

「障害」と「障がい」

本学では人を意味するときのみ可能なかぎり「障がい」として使い分けています。

講義保障

障害のある学生が希望するすべての授業について、健常者と同じレベルで受講できるように保障することです。

サポートスタッフ

challenged の支援活動にあたる者の呼称です。本学学生を中心に広く一般の方も活動しています。challenged の希望するサポート内容に応じてスタッフの募集・登録を行い、1セメスター*ごとに活動をしています。

*2学期制における学期のこと、同志社ではセメスター制をとっています。(春学期：4月～9月、秋学期10月～3月)

ノートテイク (筆記通訳)

話の内容やその場で起こっていること (学生の発言や教室内の状況まで) を文字にして伝える筆記通訳のことです。メモ書きや自分のノートとは違い「速く」「正しく」「読みやすく」書き伝える技術が必要です。

PC 通訳 (パソコン通訳)

話の内容やその場で起こっていることをPCに打ち込んで伝える通訳のことです。「速く」打つためにタッチタイプ*ができることが基本です。授業ではネットワークケابلで2台以上のPCをつなぎ連携入力を行いますので、一定の知識とスキルが必要です。

*タッチタイプ…キーボードを見ないで打つこと。

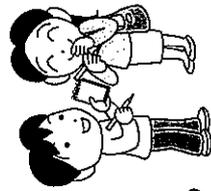
ガイドヘルプ

一人での学内移動が困難な視覚障がい学生に付き添って歩行の介助や誘導をすることです。

テキストファイル文字校正

テキストや資料をスキャナで読み取り、テキスト・データに変換します。読み取った後、ミス・リードを校正します。PCの機能を活用しながら、正確に丁寧に根気よく校正することが必要です。

障がい学生支援制度 登録から活動開始まで



障がい学生支援制度

事務局：学生支援センター 学生支援課
窓口：障がい学生支援室

障がい学生

サポートスタッフ

相談、面談 (原則として入学時まで)

スタッフ登録

障がい学生、障がい学生支援室、学部・研究科事務室の三者により、制度の利用、支援内容などについて協議。

支援活動に参加を希望する人は「支援制度スタッフ登録書」を障がい学生支援室に提出。

支援制度利用登録

活動可能な時間の申請

「支援制度利用登録書」を障がい学生支援室に提出。身体障害者手帳を持っている人は提示。

障がい学生支援室に活動可能な内容や時間帯、活動校地を申請。

スタッフ派遣依頼

支援活動の講習

「スタッフ派遣依頼書」を障がい学生支援室に提出 (具体的な講義名、時間、派遣内容等)。

各活動内容別に障がい学生支援室が実施する講習会を受講し、支援活動の準備。

サポートスタッフ派遣調整

支援活動開始

※4月からの大学生活を順調にスタートさせるために、障がい学生の方は3月中の相談をおすすめします。

※本制度は学部生を対象としています。大学院生は講義補助の立場をとっており可能な範囲でサポートします。

支援活動の内容・種類 (障害別に分類したもの)

聴覚障害

ノートテイク、PC通訳、手話通訳、ビデオ字幕付け、ビデオ文字起こし
 ノートテイク用消耗品の支給 (ルーズリーフ、ペン)
 各種機器貸出 (録音機器) ICレコーダー、テープレコーダー
 (PC関連) PC通訳用ノートPC一式、フラッシュメモリー
 (その他) 磁気テープ、卓上ペンライト

視覚障害

講義資料、試験問題、電子データ化、拡大コピー、対面朗読、代筆、代読
 ガイドヘルプ (学内移動)
 点字機器、拡大読書機等の利用
 点字室・対面朗読室の利用
 各種機器貸出 (録音機器) ICレコーダー、テープレコーダー
 (PC関連) 音声認識用PC
 (その他) 携帯用点字板、高倍率ルーペ、単眼鏡



ノートテイク

肢体不自由

代筆、車椅子介助 (学内移動)、トイレ介助、食事介助
 車両の入構及び駐車許可
 ストレッチ用休憩室の利用
 各種機器貸出 (録音機器) ICレコーダー、テープレコーダー
 (介助用) 手動式車椅子、ストレッチ用マット、シャワーチェア、車椅子用机
 (PC関連) 入力補助器具 (携帯電話型、スティック型)



車椅子介助

内部障害

ガイドヘルプ (学内移動)
 車両の入構及び駐車許可
 受講時の配慮 (教室の着席位置、途中退室の許可等)
 ※その他、必要に応じて保障および支援内容を相談します。



ガイドヘルプ

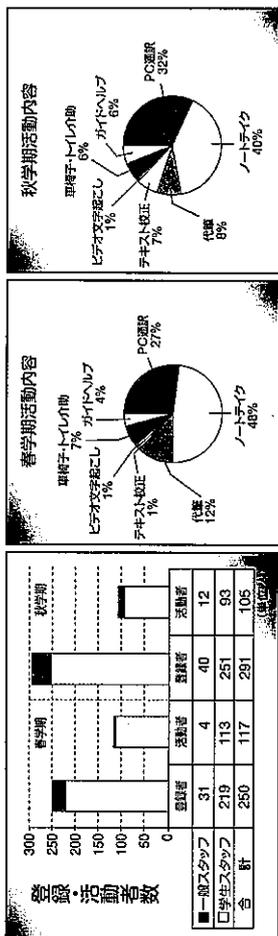
●支援活動の内訳

支援活動	学生スタッフ	一般スタッフ
手話通訳	880円/時間	1,320円/時間
PC通訳	"	1,012円/時間
ノートテイク・代筆	"	880円/時間
テキストファイル文字校正	"	"
ビデオ字幕付け・ビデオ文字起こし	"	"
点訳・資料拡大・電子データ化	"	"
車椅子介助・食事介助	"	"
ガイドヘルプ・対面朗読・代読	"	"

※支援内容によって、時間のカウントルールが変わります。

※車椅子介助・ガイドヘルプスタッフは、本学が責任をもってボランティア保険の加入手続きを行います。

●2007年度障がい学生支援制度のスタッフ登録・活動状況



2007年度秋学期利用・活動報告書より

利用学生の声

サポートがあることで、一般の学生と同じように大学生活が送れたことが制度を利用して得たものです。高校までは教師や大人のサポートが多くて、自立の面では今一歩自信が湧きませんでした。大学で制度を利用して学生からサポートを受けていることで、自分の自信が湧き、その気持ちがサポートスタッフへの信頼・安心感に繋がっていききました。また、サポートスタッフの学生さんは様々な学部の人で他学部の人と知り合え、人の輪が広がったことや、スタッフと利用学生の関係でなく、友達になれたことも大きいです。利用学生にとって大学生活でついた自信は大きく、スタッフにとっても社会に出てから障がい者に対する接し方は違ってくると思っています。両者共に障害に関係のない社会を担ってほしいな、と思います。

(肢体不自由学生：車椅子介助・トイレ介助利用)

スタッフのみんなは僕の不自由な点を本当によく理解し、講義や学校生活の支えとなってくれました。この制度によって、講義保障のみならず多くの友人を得る事ができました。また、自分の障害を受け入れ克服しようという気持ちも生まれました。職員の方は教員の方に僕の不自由さを正確かつ丁寧に説明してくれました。そのおかげで僕は楽しい大学生活を送り、教員の先生方からも有意義な配慮を得られています。

(視覚障害学生：ガイドヘルプ・代筆利用)

サポートスタッフ学生の声

私たちは、障害を持つ人を特別な存在に思いがちだけれど、障がい学生支援制度の活動をすることで、障害を持つ人はごく普通の学生で、当たり前に感じるきつかけになると思います。また、ノートテイク活動をして、話を聞くことに集中する練習にもなりました。

(文学部1年次生：ノートテイク活動)

PC通訳をはじめた頃は責任感が大きすぎて大変な仕事だと思っていただけけれど、慣れてくるとそれがやりがいに変わってきました。タイピングスキル・集中力・知識も得られるすごく良い仕事だと感じています。

(商学部2年次生：PC通訳活動)

活動をしていると、知人から「偉いね」と言われることがたびたびあります。この言葉を私は嫌だし違和感を感じます。私は偉い事をしていないと思うからです。私が車椅子を押してドアを開ける時、ちょっと押さえてくれるだけで助かります。そんな少したことだって十分な支援だと思っています。多くの学生が障がい学生支援について大ごとと考えている気がします。

(政策学部2年次生：車椅子介助活動)

障がい学生支援制度の一年

— ようこそ、チャレンジド・ラーニングの世界へ —

障がい学生支援制度概要説明会

入学式・新入生歓迎会



2007年度 春学期懇談会

4

5

6

7



点字

8

9

10

11

12

1

2

3

卒業式

障害体験講座(2日連続)



challengedキャンプ
(アイマスク食事体験)

秋学期開講期間



challengedキャンプ
(車椅子介助体験)

秋学期懇談会

※challengedキャンプとは

一人ひとりの障害体験を通じた各種障害への理解と自分自身の心のバリアと向き合うことにより心身ともに成長する事を目的としています。
そこの学びを今後の社会生活に広く活かす事を目指しています。

入学試験要項(願書)請求方法

一般選抜入学試験・大学入学センター試験を利用する入学試験

※両試験の願書がセットになっています。

ホームページから申込み

URL: <http://www.doshisha.ac.jp/nyushi/>

全国主要書店で購入

本学門前所で入手

今出川校地正門・西門および京田辺校地正門で配布

郵便局で申込み

東京オフィス・大阪サテライトで入手

東京オフィス

〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目6番2号 日本ビルディング5階566区

TEL: 03-3516-7577

大阪サテライト

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目1-22 野村不動産西梅田ビル9階

TEL: 06-4799-3255

メールで申込み

郵便番号・住所・氏名(フリガナも)・電話番号および「入学試験の種類を明記」願書」希望と明記の上、入試課(i-nyus@mail.doshisha.ac.jp)にメール

FAXで申込み

郵便番号・住所・氏名(フリガナも)・電話番号および「入学試験の種類を明記」願書」希望と明記の上、入試課(075-251-3082)にFAX

ハガキで申込み

郵便番号・住所・氏名(フリガナも)・電話番号および「入学試験の種類を明記」願書」希望と明記の上、〒602-8580 同志社大学入試課(住所不要)に郵送

価格: 670円(郵送の場合は、1,000円) 販売時期: 11月

サポートスタッフには「スタッフジャンパー」を渡しています。障がい学生支援制度の

周知、およびスタッフとして活動していることを示す為に着用しています。



「Do, CARE」とは

Doshisha, Challenged Assistance for the Right Educationの英文字をとったものであり、「等しい条件の下で教育を受けられる同志社大学障がい学生支援」という意味です。また、英文学のCAREは「思いやり」という意味を含んでいます。その二つの意味を両手に包みこみ、支えることを同志社大学の障がい学生支援室は目指しています。